

～ここに笑顔の種がふる～

はあとふる

地域の皆さまに、
Warm Heart(心)
Cool Head(知識)
Beautiful Hands(技術)
でヘルスケアサービスを
提供するための
コミュニケーション誌



Vol. 53
2018年
6月

特集

医療法人はあとふる

- 2018年度 理事長メッセージ
- 『運動器ケア しまだ病院』
『Eudynamics ヴィゴラス』落成記念式 開催

Eudynamics ヴィゴラス

- 『Eudynamics ヴィゴラス』とは？
- 地下パフォーマンススペースに込めた想い
- 地下パフォーマンススペース活動報告
- マシン紹介

運動器ケア しまだ病院

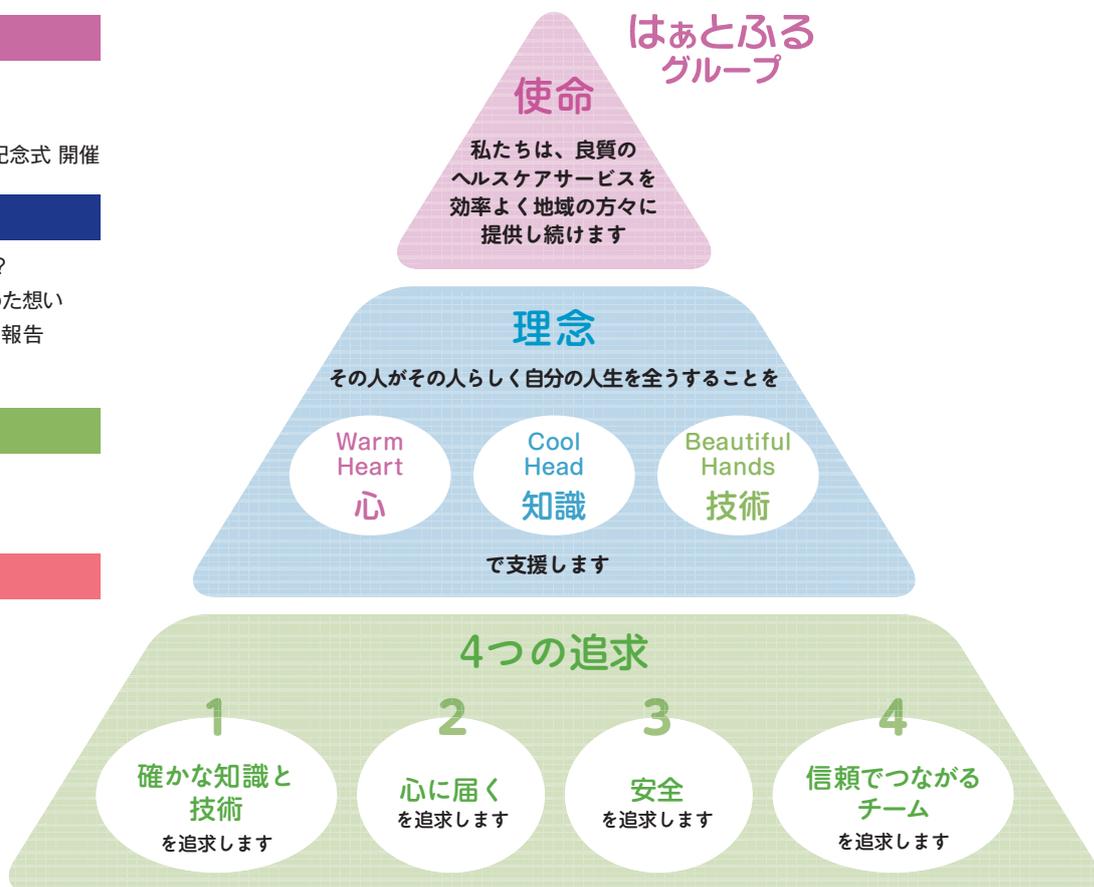
- 徹底した保存療法に取り組む
- 手術実績

八尾はあとふる病院

- 地域包括ケア病棟の役割
- 診療実績

TOPICS

- 新入職員オリエンテーション実施
- ボランティア活動紹介



2018年度 理事長メッセージ

これからも、皆さまと信頼で 結ばれるために 「想い」を伝えられる関係づくりを

2017年の11月、私たちの法人名が変わりました。創業者の名前にちなんで「永広会」から、私たちの理念を凝縮した『はあとふる』への変更です。同時に「島田病院」は『運動器ケアしまだ病院』に、また「Eudynamics はびきのヴィゴラス」は『Eudynamics ヴィゴラス』とそれぞれ新しい名称となりました。羽曳野での建て替え工事の竣工に合わせて、気持ちも新たな再スタートです。

私たちがなりわいとしているヘルスケアという仕事は、治療を行うだけでは完結しません。身体に生じた不具合によるすべての影響が対象だと思っています。そのため、病気やケガによって、何が今までと違うのか、日々の生活の中で何にお困りなのか、ご自分が計画していたことへの不安はないかなど、きめ細かくお尋ねすることが第一歩となります。そのうえで、どうすればマイナスをゼロに近づけることができるか、と一緒に話し合い、対応を検討していくことになるのです。医学的な対処と並行したこれらの取り組みは、正しい治療を行うことと同じくらい大切なことだと思っています。

言葉ではこれだけのことなのですが、実際にその通りにケアを実践するのは簡単なことではありません。実際のケアの現場で、もっとも重要で、基盤となるのは、皆さま方と私たちが「信頼」で結ばれているかどうかではないかと思っています。

私たちははあとふるグループでは、その「信頼」をいただくために、これからも活動を通じ、精一杯のメッセージを皆さまに送り届けたいと思っています。そこで、私たちと触れ合った機会に、現場のスタッフには、お困りのこと、抱いておられる不安の中身、将来の計画など、ぜひ率直にお伝えいただきたいと思っています。その情報が私たちの挑戦につながります。

もちろん、すべての課題を解決できるはずありません。しかし、仲間として、同士として私たちが認めていただき、相談に乗り一緒に検討することが、目標達成への一歩になると思っています。そして、その経験の一つひとつが私たちが育むことにもなるのです。

これからも何卒よろしく、ご理解、ご協力をいただきますよう、お願い申し上げます。

はあとふるグループ 代表

島田 永広

『運動器ケアしまだ病院』 『Eudynamics ヴィゴラス』 落成記念式 開催

オペラ歌手の佐藤しのぶさんの ミニリサイタルと 六代豊竹呂太夫さんの浄瑠璃 「寿三番叟」で、新しい建物を 寿いでいただきました



島田理事長のあいさつ



医師になってちょうど40年、そして院長・理事長に就任して30年が経ちました。世間知らずで感謝知らず、夢知らずの私でしたが、今やこんなにもたくさんの仲間ができました。皆さまの支えがあったからこそ、知識や経験を積み、夢を持つことができたのです。何よりも、その感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。

私の夢、それは病気や機能障害の治療だけでなくとどまらず、それを抱える人、そしてその人の住む地域に寄り添ったケアを提供することです。「Narrative (物語)」患者さまの人生の方向性・希望・予定に、「Evidence (医学の進歩)」を重ね合わせる。その上で「Communication (意思疎通)」を図る。「運動器ケアしまだ病院」『Eudynamics ヴィゴラス』なら、それが実現できると信じています。この場所を起点として、地域が求めるケアの提供を、私の夢を広げていきたいと思っています。

娘婿の勝田紘史副院長と長男の島田永士事務担当副院長とともに、皆さまのご恩に報いたいと思っています。これからも率直なご意見、厳しいご指導を、何卒よろしく願いいたします。

2016年5月に新病院棟が完成。続いて2017年11月にエントランス、さらに病院に併設された疾病予防施設『Eudynamics ヴィゴラス』も完成し、病院名称も島田病院から『運動器ケアしまだ病院』へ改名いたしました。そこで2018年1月28日(日)に両施設の落成記念式を開催。約200名もの関係者にお集まりいただきました。ここでは理事長、ならびにご来賓くださった方々からのごあいさつをご紹介します。

来賓の方々からの祝辞

京都大学 iPS 細胞研究所 所長 山中 伸弥 先生

所用によりおうかがいできず、とても残念です。私は今、研究者をしています。昔は整形外科医をめざしておりました。当時、島田先生、島田病院にはとてもお世話になったのです。外来、手術、たくさんのごことを学びました。そして月日が経ち、やがて研究者の道を志すようになりました。さまざまな迷いを抱えながらも、島田先生に「研究者として新しい治療法を作って、別の形で一度にたくさんの人に貢献したい」という想いを伝えたいことを覚えています。すると島田先生から「僕もメスは置いたけれども、これからは経営者として医療法人のトップとして、たくさんのお患者さん、そのご家族に貢献したいんだ。想いは一緒だな」と言っていたので、とても勇気づけられたのを覚えています。これからも、ますます発展されていくことが本当に楽しみです。新病院棟の完成、本当におめでとうございます。



© 京都大学 iPS 細胞研究所

羽曳野市市長 北川 嗣雄 氏

この度、新しいスタートを切られたことを心よりお慶び申し上げます。これからの頑張りに対する大きな期待をいたします。地域の皆さんと一緒に町づくりをさせていただき、平成19年に天皇后両陛下が「介護老人保健施設 悠々亭」に行幸啓された時には非常に嬉しく思いました。羽曳野の未来を考えるうえ

で、地域になくならない事業をともに展開させていただくことができる喜びに、心から感謝申し上げます。



独立病院法人 国立病院機構 仙台西多賀病院 脊椎脊髄疾患研究センター センター長 国分 正一 先生

整形外科の世界では、2000年から世界運動が始まっています。「The Bone and Joint Decade」です。患者さんを大事にし、最終的には社会を意識した運動器の診療体系を作っていくという考え方。まさに島田先生の思想そのものです。1998年の時点で、島田先生は大胆にも先んじて挑戦していたのです。「Eudynamics」なんて言葉も、ひょいと使い、これ

からの市民の言葉に変えていく。こういったセンスもまた、島田先生の才能だと感じます。次代を担う方たちも、市民・地域に根ざした、新しい思想をお考えになって踏み出してください。



公益財団法人 日本オリンピック委員会 アーティスティックスマイミング日本代表 ヘッドコーチ 井村 雅代 氏

私が指導する選手の多くは、島田先生に非常にお世話になっております。島田先生のことをチームドクター、「運動器ケアしまだ病院」を専属の病院だと、勝手に決めているくらいです。いつも感心するのは、「早く元の選手生活・元のスキルに戻してやろう」という気持ちが、しまだ病院のスタッフの治療から伝わること。運動を止めさせず、継続を考える。

選手それぞれの異なる目標に寄り添い、ともに歩んでくださるところが他にはない魅力です。その精神をこれからも、強く引き通していただきたいと思います。



国立大学法人 福島県立医科大学 常任顧問 菊地 臣一 先生

島田先生のあいさつを聞いて、喜びも悲しみも含め、幾年月に万感胸に迫る想いを感じました。島田先生の夢、その意気込みは、きっと次代を担う若い人たちに受け継がれているだろうと思います。はあとふるグループが発行する広報誌を読んでいても、先生の魂が確実に引き継がれていることが伝わってきます。だか

ら先生、あとはどうか若人に任せて、そろそろごゆっくりなさってはいかがでしょうか。あまりみんなの邪魔にならないよう、頑張ってください(笑)。



『Eudynamics ヴィゴラス』とは?

スポーツ医学にもとづいたフィットネスクラブ 「守りの治療」から「攻めの予防」へ



「Eudynamics はびきのヴィゴラス」は、疾病予防・改善を目的とした病院併設の運動施設(医療法第42条)として2003年8月に開設しました。その後、『Eudynamics ヴィゴラス』へ改称。『運動器ケア しまだ病院』のそれまでのスポーツ医学・リハビリテーションの実績を基盤に、全世代を対象とした健康増進・疾病予防・スポーツ参加と競技力向上などへの取り組みを実践しています。専門病院と一貫した連係体制で、専属トレーナーに加えてリハビリ専門職がさまざまな不安や症状・ご要望にお応えします。そして、お一人おひとりのQOL(Quality of Life)の保持・増進と地域の元気を実現します。

ヴィゴラスでできる5つの動く



運動と栄養管理による健康増進

全ての年齢層で、日頃からの効果的な食事と運動習慣から、ダイエットやメタボ、ロコモの予防・改善を含めて、お一人おひとりの状態とペースに適したサポートをご提供いたします。



リハビリ修了後のトレーニングと再発予防

病院などのリハビリテーションを修了された後も、積極的な運動プログラムや定期的なチェックで、さらなる身体的・精神的回復を目指します。また、状態が改善した後も、長く良い状態を保てる身体作りと自己管理の習慣を身につけていただきます。



スポーツパフォーマンス向上 (ジュニアからトップアスリート)

成長期のジュニア世代や結果にこだわるトップアスリート、中高年のスポーツ愛好家など、スポーツ障害予防から競技力向上まで、体力向上と正しい身体の使い方のご提案と実践で、スポーツ選手やチームをサポートいたします。



障がい者スポーツ推進

運動初心者からパラリンピックを目指す方まで、さまざまな障がい特性に合わせて、競技力向上の土台となる体力向上とセルフケアから、適切なスポーツ活動をサポートします。



女性の健康サポート (Women's health)

産前・産後や更年期など、女性のライフステージごとの症状に対する対処や予防方法を、担当の女性トレーナーが丁寧なカウンセリングとチェックをもとにご提案いたします。



現在の取り組み



- 個々の目標や特徴に合わせたトレーニングプログラムおよび多種多様な集団プログラムの提供
- アスリートへの栄養指導
- 近隣の行政が主管する介護予防事業などへの参画



- リハビリテーションで家事や仕事、スポーツができるようになった後の状態チェックや再発予防のサポート
- 主体的に身体と向き合い、更なる症状の改善や自己管理の習慣をつけるためのサポート



- 「TASH (Top Athlete Support team Heartful)」の活動
- オリンピック選手、野球やサッカーで将来を担うジュニア、マラソンや登山が趣味の愛好家など、幅広い層の競技力向上と傷害予防のサポート



- 障がい者スポーツについて、今後取り組みを推進していく予定



- 女性のための健活レッスンや産後ケア教室開催
- マンツーマンによる女性のライフステージに合わせたケア

ユーダイナミクス

『Eudynamics ヴィゴラス』と 地下パフォーマンススペースに込めた想い

貫き通した設備への希望 叶えた今、「質」にこだわったケアを

『Eudynamics ヴィゴラス』で身体を動かす人たちが、病院の正面から良く見えるように…。私たちの一貫した想いを示すために、これは設計に欠かせない条件でした。運動器ケアという発想には、「動かして治す」というコンセプトがあります。その代名詞となる疾病予防施設、そこで実際に「身体を動かしている人々」を正面に出す設計は、実現すべきことだったのです。

地下パフォーマンススペースについては、当初からコンクリートの床材でもいいだろうという話もありました。しかし、スタッフは「人工芝グラウンドと陸上用トラックを導入して欲しい」という意見を貫きました。各競技のパフォーマンスまでを評価して指導することで、初めてその人らしくスポーツや仕事に復帰できるという考えがあったからです。



無理を通して整えた設備。これからもスタッフ一丸となり、設備に負けないケアを提供できるよう、質にこだわり抜きたいと考えています。

地域貢献

Eudynamics ヴィゴラス

地下パフォーマンススペース活動報告

スポーツを楽しむ続ける 技術向上と傷害予防に

地下パフォーマンススペースでは、広いスペースを使って、競技特性に合わせたフィジカルテストや投球動作チェック、ゴルフスイングの評価なども実施しています。今回は、地域の中学生サッカーチームを対象

に、メディカルチェックを実施。好きなスポーツをこれから先も長く楽しんでもらえるように、体力向上と正しい身体の使い方を指導し、競技力向上とスポーツ傷害予防に取り組んでいます。



INTRODUCTION

Eudynamics ヴィゴラス

『Eudynamics ヴィゴラス』マシン紹介

スキルミル



◀従来の電動ランニングマシンと違い、「自力で動かせるランニングマシン」。正しい歩き方の習得からスピードや瞬発力などあらゆる運動能力を高めることができます。(有酸素エリア)

ファンクショナルトレーナー



◀空気の負荷をかけることができ、より一効率よく力を発揮する「能力を高めることが可能です」。1台で、押す・引く・捻る・踏み込む・しゃがむ・跳がなど、人が行うあらゆる動作自体を鍛えることができます。(マシンエリア)

パワープレート



◀1秒間に25〜50回の高速振動を上下・左右・前後あらゆる方向から発生させ、身体の負担も少なく筋力やバランスなどを効率良く鍛え、さらに筋肉のリリース効果を得ることができます。(マシンエリア)

(注) 治療中の疾患などがある場合は、スタッフと相談の上ご利用いただくこととなります。

徹底した保存療法に取り組む

安易に手術に頼らない 的確な診断とリハビリテーション

一般的な整形外科における保存療法の位置づけとは、薬物療法、装具療法に加えて、運動療法などの理学療法を含むリハビリテーションが主体です。中でも『運動器ケア しまだ病院』が考える保存療法は、運動療法を中心に、正しい身体の使い方を習得し、その人がその人らしい人生を過ごすためにサポートするというリハビリテーションであると考えています。

運動器に起こる問題は、すべてが手術で解決するわけではありません。むしろ運動器とは、動かすことで本来の機能を取り戻す可能性がある器官なのです。だから私たちは、変形や痛みが強い

からといって、すぐに手術するという選択をお勧めすることはありません。まずは手術せずに痛みを緩和し、機能を戻すことができるか、という考えが出発点となります。

運動器は、動かさなければすぐに機能が衰えてしまいます。衰えれば、同じ痛み悩まされるだけでなく、やがて動けなくなります。単に痛みを取る治療や手術をしても、結果として望む生活が手に入らないこともあるのです。だからこそ適切な動きを身につけて、痛まない身体をつくる。私たちは徹底した「動いて治す保存療法」に、ヴィゴラスと連携して取り組んでいます。

▼機能の保存を優先し、最善の方法をともに見つけ出します

〈シェアード デシジョン(Shared decision)の考え方〉

患者さん

症状や困ったことを伝える何ができるようにしたいか? 目標を伝える

病態について説明する。目標に対して医学的に最善なアプローチを提案する

診断や治療方法を理解する。治療方法を選択する

医療者

「あなたにとっての最善」を、両者が納得して合意する

「動いて治す保存療法」の運動療法実践例

ポイント①

負荷に耐えうる身体づくり

痛みがなくなれば治療が終わりという考えではなく、これからの人生において仕事やスポーツの負荷に耐えうる身体づくりを、療法士・トレーナーのアドバイスのもと実践します。その人の仕事、スポーツ特性に合わせたトレーニングをマンツーマンで指導します。



ポイント②

適切な動きを身につける

運動器の痛みは、姿勢不良、動作不良などから生じることもあります。不適切な身体の使い方や、身体の中のどの部分が硬いのか、どの筋力が弱いのかなどさまざまな要因を分析して、その人に合わせた運動療法の提案をおこないます。



ポイント③

適切な自己管理の方法を身につける

運動療法においては、自己管理がとても重要になります。病院でのリハビリテーションは、生活のごく一部の時間であり、自宅での運動継続、いわば自己管理ができてはじめて私たちの目指す本来の目標が達成されます。痛くなればすぐ病院ではなく、痛まない身体づくりと合わせて、適切な自己管理の指導に力を入れています。



『運動器ケア しまだ病院』の手術実績

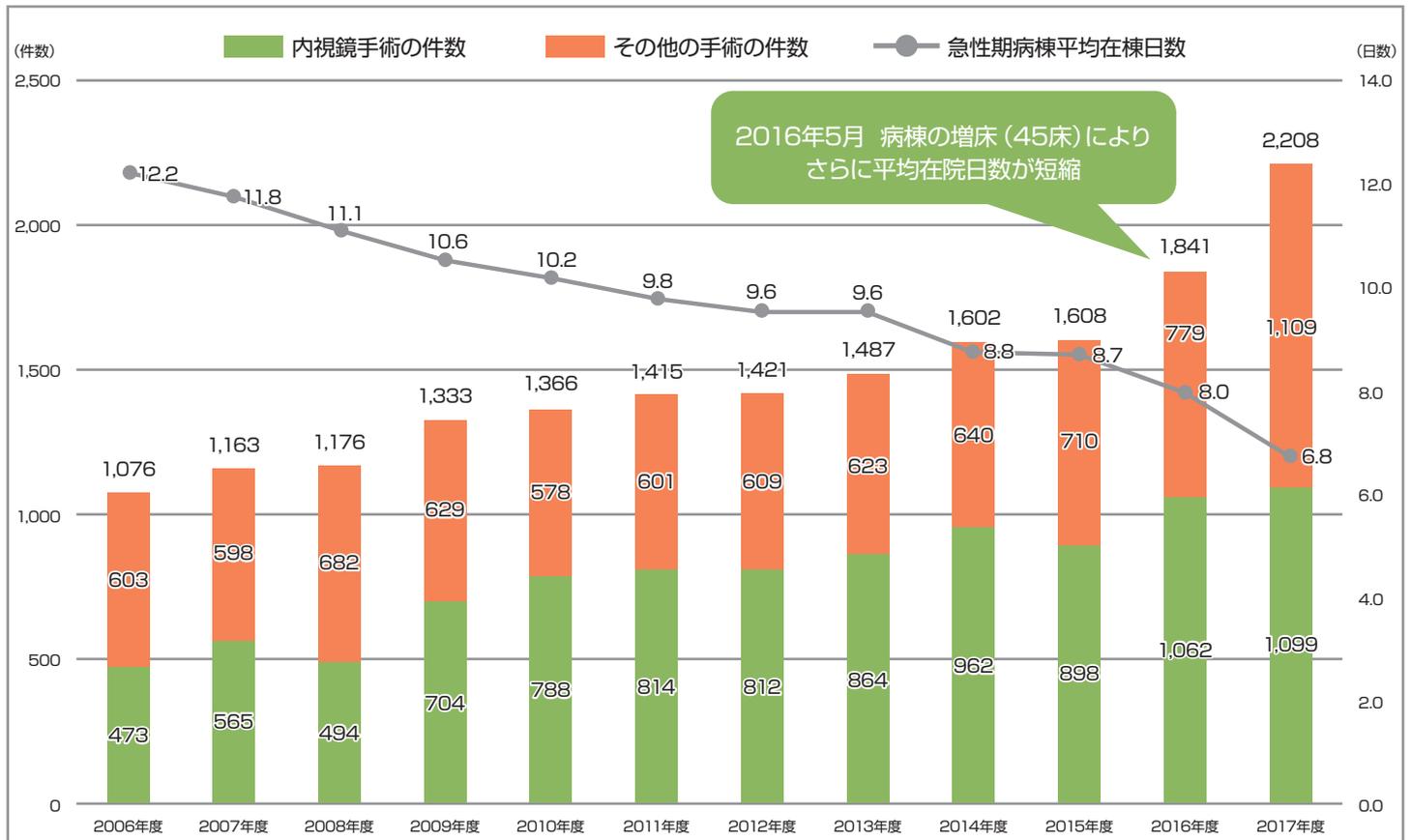
徹底した保存療法と、適切な手術 手術後は多職種連携によるチームサポートを

『運動器ケア しまだ病院』では、徹底した保存療法を行ったうえで、手術が必要な患者さんに適切なタイミングで手術を行っています。手術の適用や時期、方法などについては、カンファレンスなどで常に確認しています。また手術後には看護師やセラピストなど、多職種連携によるサポート、徹底したチーム医療を実践して、早期の社会復帰、競技復帰を可能としています。

2017年度の急性期病棟平均在棟日数は6.8日で、前年と比べて1.2日短くなりました。2016年度に地域包括ケア病棟を増床したことによって、急性期からの受け皿として機能し始めたことも、急性期病棟の平均在棟日数短縮につながったと考えています。手術件数も前年と比べて367件増え2,208件となり、多くの患者さまに当院を選んでいただいた結果だと考えています。



手術実績推移



『八尾はあとふる病院』地域包括ケア病棟の役割

地域リハビリテーションの根幹病院として さまざまな問題に寄り添い、ともに解決を図る



『八尾はあとふる病院』の2階病棟は2017年1月に医療療養病棟から自分たちの得意技“リハビリテーション・ケア”を最大限発揮できる地域包括ケア病棟に転換しました。地域包括ケア病棟協会ホームページでも「ときどき入院、ほぼ在宅」と記されているように、この病棟は幅広い対象者の地域生活を支え続けるための機能を持ちます。

全国的に在宅からの受け入れ体制が充実した施設は少なく、全国データ（※1）でも在宅からの受入は12%程度と課題となっていますが、当病棟では在宅からの受け入れが31.9%と高い割合を示しています。当院が外来・訪問・通所などの在宅リハビリテーション機能、居宅介護支援事業所を有しており、退院後の切れ目ない在宅生活のサポートができること、近隣クリニックや在宅サービスとの積み重ねにより、在宅からの受け入れ体制の充実化が図られていることが要因だと考えています。

対象となる疾患は、脳血管疾患と骨折などの運動器疾患、廃用症候群（※2）などです。脳血管疾患については、症状が比較的軽くても急性期病院から直接在宅へ帰られることが不安な方々に、安心して在宅へ帰っていただけるよう支援します。もともと重度の疾患をお持ちで、すでに在宅で支援を受けておられる方々に対しては、リハビリテーション・ケアにより生活力を高め、介護者の負担を軽減することや新たな生活プランの提案を行います。

運動器疾患では、急性期治療が終わった方をできるだけ早期に受け入れ、集中したリハビリテーション・ケアにより在宅へ戻っていただく支援を行っています。またリハビリテーションだけでなく、創

傷処置や体調管理、教育入院、レスパイトケア（※3）など、さまざまな要因で在宅生活の継続が困難になった方々にとって“懐の深い駆け込み寺”的な役割を果たし、その人らしさを再構築していただくことのお手伝いをするのが、『八尾はあとふる病院』地域包括ケア病棟の最大の役割です。

※1 平成27年第3回 中央社会保険医療協議会データ

※2 安静状態が長期に渡って続くことによって起こる、さまざまな心身の機能低下などを指す

※3 在宅介護の要介護状態の方（利用者）が、福祉サービスなどを利用している間、介護をしている家族などが一時的に介護から解放され、休息をとれるようにする支援



回復期リハビリテーション病棟の診療実績

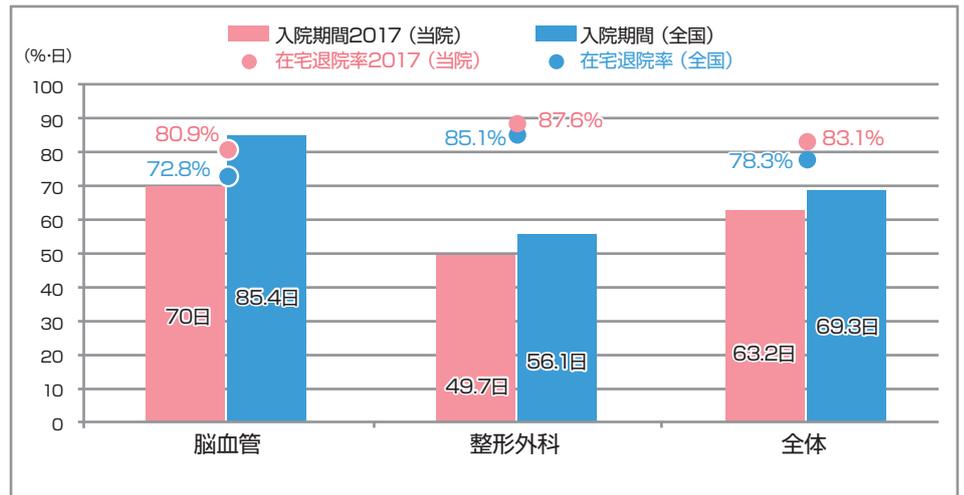
全国平均を上回る在宅への退院率 必要な人へ、適切なリハビリテーションの提供を

『八尾はあとふる病院』の回復期リハビリテーション病棟は、年々脳血管疾患の割合が増えています。昨年度は退院の65%を脳血管疾患の患者さんが占めていました。地域包括ケア病棟でもリハビリテーション・ケアの提供が可能なことにより、回復期リハビリテーション病棟は重度の脳血管疾患の患者さんに集中できる体制が整いつつあります。

当病棟の特徴は全国平均（※1）に比べ入院期間が短い（脳血管疾患では2週間以上）にも関わらず、在宅退院率が全国平均を上回っているということです。

※1 全国平均は、(社)回復期リハビリテーション病棟協会の2017年度データ

入院期間と在宅退院率の比較



(出典) (社)回復期リハビリテーション病棟協会2017年度データ

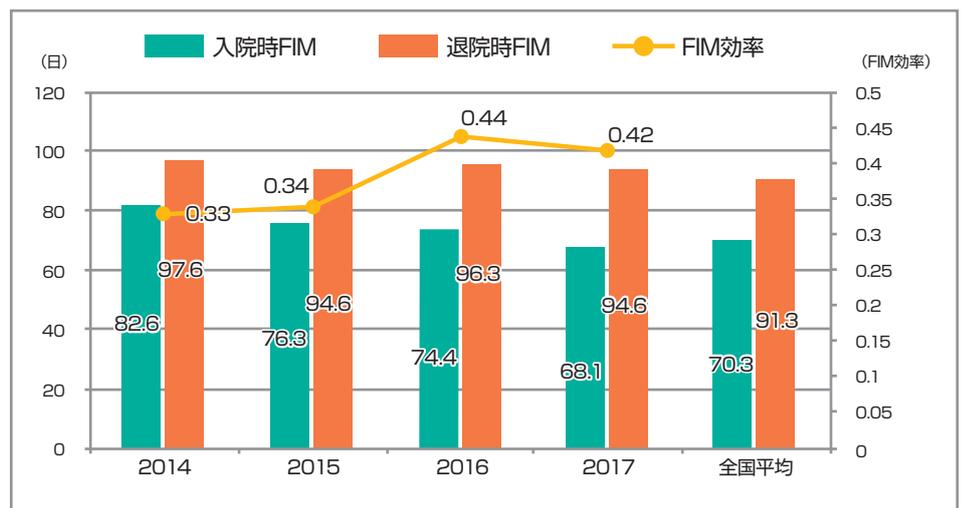
リハビリテーション・ケアの効果

また、FIM (Functional Independence Measure) 効率（※2）がここ数年上がっていることから短期集中でのリハビリテーション・ケアの成果がうかがえます。

※2 FIM: 機能的自立度評価表 (Functional Independence Measure) の略で、どれくらい他の人や道具に頼らないで、日常生活を行うことができるかを評価しています。

FIM効率: FIM利得 / 入院日数 (リハビリ効果を入院1日当たりで表したもの)

入・退院時FIMの比較とFIM効率



(出典) (社)回復期リハビリテーション病棟協会2017年度データ

回復期リハビリテーション病棟と地域包括ケア病棟という2つのリハビリテーション機能を持った『八尾はあとふる病院』は、相談員・看護師で構成された「地域連携室」の一貫した相談体制で運用することで、必要な人に適切なタイミングで、良質なりハビリテーション・ケアを提供できる体制を整えています。

新入職員オリエンテーション実施

新たな出発の春

はあとふるグループに41名の仲間が加わりました

この春、医師・セラピスト・看護師など、41名の新入職員が私たちの仲間に加わりました。そこで4月2日（月）～5日（木）の4日間でオリエンテーションを実施。ヘルスケア従事者としての基礎知識を習得するため、先輩スタッフが講師となり、さまざまな研修を企画・実践しています。濃密なプログラムを経ることで、スタッフ一人ひとりがはあとふるグループのメンバーであることを自覚し、めざした場所に向かう喜びと、少しの不安を抱えながらそれぞれの道へと進むことができるのです。

患者さん、利用者さんからの温かなお言葉は、スタッフの励みとなります。至らぬことへのお叱りは、振り返ることで、スタッフ、そしてグループ全体にとっての学びとなります。ぜひ、皆さまのお声をお聞かせください！



▲院内緊急コールや基礎的救命法(BLS)について学び、AEDを使った訓練を実施



▼高齢者の方や患者さんがどういった状況なのかを、職員それぞれが体験



▲「運動器ケア しまだ病院」救急医療チームの指導のもと、胸骨圧迫方法を実践



▲グループとして一つの合意を形成するためのディスカッション



▼接遇の考え方、マナーなど、講義やロールプレイングを通じて学習

ピックアップ★ルーキーズ!

フレッシュな「はあと」に期待! PICK UP ★ ROOKIES

理学療法士 中口さん

生活に困っている人を少しでも助けたいと思い、この世界に飛び込んできました。知識、技術で至らない部分はありますが、患者さんとともにリハビリに励み、笑顔で自宅に帰っていただけるよう精一杯頑張ります。



相談員 大濱さん

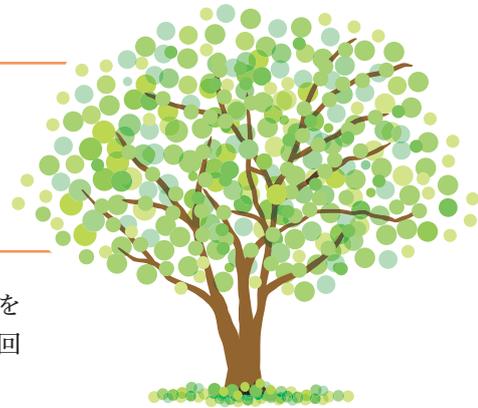
いつでも患者さん、ご利用者さんやご家族、そして病院のために成すことを忘れず、感謝の気持ちを持って頑張ります。



看護師 佐藤さん

患者さんに寄り添い、お一人おひとりに合った看護ができるよう努力していきたいです。





ボランティア活動紹介

はあとふるグループでは、皆さまから「私たちの病院」「私たちの施設」と感じていただくことを目指し、地域の方々にボランティアとしてはあとふるケアのお手伝いをしていただいています。今回は、はあとふるグループの活動を支えてくださっているボランティアの皆さまをご紹介します。

悠々亭・しまだ病院 車いす清掃ボランティア

悠々亭としまだ病院に毎週、車いす清掃ボランティアの方が来てくれています。1台ずつピカピカに磨いて整備して下さるので、皆さんが気持ちよく使うことができます。日頃お手伝いしてくれるたくさんのボランティアの方が、見えないところを支えてくださっています。



悠々亭 園芸ボランティア

悠々亭の園芸ボランティアさんを通じて、羽曳野市蔵之内にある「花と緑の相談所」からたくさんのお花をいただきました。悠々亭の6階にある庭園は、ご利用者さん・患者さんがリハビリや気分転換に訪れます。少し寂しかった庭園が、春のお花でいっきに華やかになりました。感謝！



しまだ病院 案内係ボランティア

毎週火・金曜日の午前中、しまだ病院入口の案内係としてボランティアの方がお手伝いに来てくれています。病院入口付近で困っている患者さんやご利用者さんに声をかけ、車椅子の貸し出しや施設案内、受付への誘導を行って来てくれています。ともに頑張る「はあとふるグループ」の仲間です。



ボランティア感謝祭

はあとふるグループでは、総勢70名の方が各施設でボランティアとして活動して下さっています。そこで日頃の感謝の気持ちを、言葉や記念品、感謝状に込めてお渡ししました。フォトムービーで気持ちを伝え、参加された皆さまに喜んでいただくことができました。



傾聴ボランティアの報告

2017年3月から利用をスタートした八尾市社会福祉協議会の傾聴ボランティア「えくぼ」を紹介します。

患者さんにとって入院生活は非日常です。「リハビリは忙しい」けれど、空いた時間は「手持ちぶさた」になってしまうこともあります。地域包括ケア病棟ができて、傾聴ボランティアをお願いすることになった目的は二つです。入院している患者さんの空いた時間を有効活用することと、地域住民であるボランティアの方々に、医療機関を身近に知っていただく機会を作ることでした。活動は月1回1時間程度、2名のボランティアさんが病棟から紹介された5名ないし6名の患者さんに対して傾聴を行います。病棟は名前のみしか情報を渡すことはありません。患者さんは、話を聞いてくれるボランティアさんに家族のことや病院の雰囲気、リハビリの状況の話などさまざまな内容の話をして

いるようです。1時間ゆっくりとお話を聞きながら、本当に一人おひとりに丁寧に関わっていただいているのですが、守秘義務があるので、病棟スタッフも内容を確認することはありません。話を聞いて、関わりを行う事で「癒し」の効果があるように思います。患者さんのお話を終えると、すっきりした表情になる方もいるようです。傾聴ボランティア「えくぼ」さんの関わりを始めて1年が過ぎました。現在ではボランティアが3名に増えています。これからは非日常を日常に変化させていただけるように関わりを継続していただきます。



カフェ オリーブ
Cafe Olive オープン

運動器ケア しまだ病院1階に
「食事から健康で
元気な身体づくり」を
コンセプトにしたカフェが誕生。

■ 営業時間

8:30 ~ 19:00 (木・土 8:30 ~ 17:00)

Morning / 9:00 ~ 11:00

Lunch / 11:30 ~ 14:00

■ 定休日

日・祝

Menu

♥Drink
Oliveオリジナルコーヒー
オランカサプリメントドリンク など

♥Bread
グリルチキンのホットサンド
フレッシュ野菜とロースハムサンド など

♥Lunch
しまだおすすめヘルシーランチセット など



求人情報 整形外科医、リハビリ職など

はあとふるグループでは、整形外科医(後期研修医・専門医)をはじめ、内科・リハ科専門医・看護職・介護職・リハビリ職など、幅広く人材を募集しています。

はあとふるグループ 求人

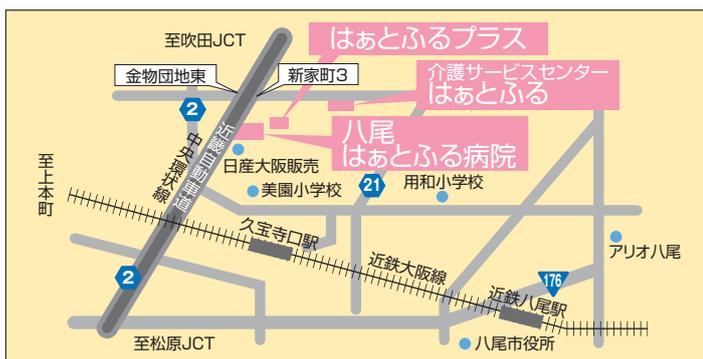
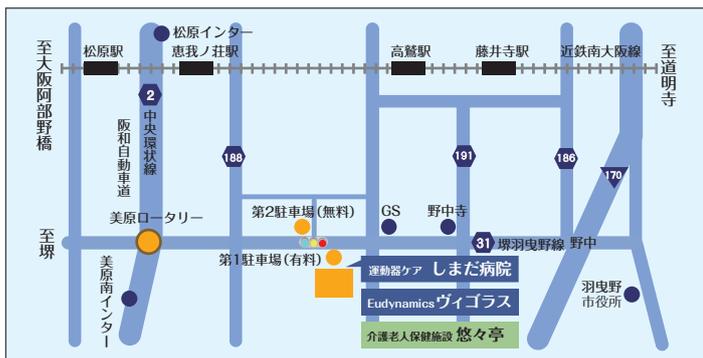


Facebook 日々の活動など発信しています。



Blog 島田永和からの「はあとふるエール」

はあとふるグループ代表島田永和から皆さまへ
に向けたメッセージを発信するBlogを近日開設します。



はあとふるグループ

医療法人はあとふる

- 運動器ケア しまだ病院 Tel.072-953-1001 / Fax.072-953-1552
- Eudynamics ヴィゴラス Tel.072-953-1007 / Fax.072-953-1007
- 介護老人保健施設 悠々亭 Tel.072-953-1002 / Fax.072-953-1911
- 通所リハビリテーション Tel.072-953-0045 / Fax.072-953-1911
- 在宅介護支援センター 悠々亭 Tel.072-953-1003 / Fax.072-953-1332
- 介護サービスセンター ゆうゆう亭 Tel.072-953-5514 / Fax.072-953-1332

〒583-0875 大阪府羽曳野市榎山100-1

- ヘルパーステーション 悠々亭 Tel.072-953-1062 / Fax.072-953-0022
- 訪問看護ステーション ハートパークはびきの Tel.072-953-1004 / Fax.072-953-0022

〒583-0883 大阪府羽曳野市向野3-96-7

- 八尾はあとふる病院 Tel.072-999-0725 / Fax.072-923-0180
- 通所リハビリテーション Tel.072-999-0726 / Fax.072-923-0186
- 訪問リハビリテーション Tel.072-999-0725 / Fax.072-923-0180

〒581-0818 大阪府八尾市美園町2-18-1

- 介護サービスセンター はあとふる Tel.072-999-8126 / Fax.072-999-6118

〒581-0815 大阪府八尾市宮町5-6-22

- 通所介護 はあとふるプラス Tel.072-920-7216 / Fax.072-920-7256

〒581-0815 大阪府八尾市宮町6-6-16

社会福祉法人はあとふる

- 通所介護 ゆうゆうハウス Tel.072-931-1616 / Fax.072-931-1128
- サービス付高齢者向け住宅 ゆうゆうハウス Tel.072-931-1616 / Fax.072-931-1128

〒583-0875 大阪府羽曳野市榎山96-10

